

龍馬の定宿だった寺田屋

お龍とお登勢。龍馬の短い生涯を飾る二人の女性ゆかりの寺田屋は、今も往時の船宿風情を残す。寺田屋は現在も泊まることができる。

寺田屋

幕末史に刻まれる二つの事件の舞台となった船宿。風雲の時代、若き志士たちの青春を今も静かに語りかける。



お龍が入っていたという風呂桶
お龍は、入浴中に寺田屋を囲む幕末に気付き、裸のまま2階へ駆け上って龍馬へ急を知らせたという。



龍馬が撃ったピストルの弾痕
龍馬は高杉晋作からもらったピストルで、踏み込んだ幕吏と応戦した。その時に付いたとされる弾痕。



龍馬の間

2階の座敷には龍馬ゆかりの品が並ぶ。床の間の肖像画は、祇園・円山公園にある龍馬像のモデルだという。

お龍の機転で九死に一生を得た船宿・寺田屋

伏見の船宿で薩摩藩の定宿。長州藩士や土佐藩の坂本龍馬らも常連客だった。文久二年（二八六二）四月二三日夕、薩摩藩の内紛「寺田屋騒動」がぼつ発。王政復古クーデターを企図する薩摩急進派とそれを阻止しようとする薩摩鎮撫使側が激突し、有馬新七ら九烈士が闘死した。

四年後の慶応二年（一八六六）一月二三日、薩長連合を成立させて休息中の龍馬が幕吏に襲撃されたが、入浴中のお龍の機転で危機一髪難を免れたもう一つの寺田屋騒動が有名。部屋の内には当時の刀痕が刻まれている。お龍が入浴していた風呂や龍馬ゆかりの遺品なども所狭しと並べられ、龍馬ファンが後を絶たない。